

本道では、昭和60年に北海道特殊教育諸学校文化体育連盟が発足した。体育活動については、障害種ごとに全道大会を開催し、各学校から選手が集い日頃の運動の成果を競い合うとともに、児童・生徒同士の交流を図ってきた。

現在も、盲学校、聾学校および肢体不自由養護学校が、障害の特性等に応じて実施する競技種目を工夫しながら全道大会を開催しており、障害のある児童・生徒のスポーツ活動推進の役割を果たしている。

本年度は、8月に石狩市で全国盲学校野球大会（グラウンドソフトボール）、10月に札幌市で知的障害者のサッカー日韓交流戦（道内の知的障害高等養護学校の生徒も参加）を開催した。これらは新聞等で報道され広く道民

卒業生のメダリストや高校生と交流



池崎選手とウィルチエアーラグビーを楽しむ生徒たち

本年度は、本校の卒業生でリオパラリンピックのウィルチエアーラグビーで銅メダルを獲得した池崎大輔

の関心を集めたことか選手を招いて講演と体験交流を実施した。生徒たちは、銅メダルとい取り組みとなった。池崎選手のプレーに目また、本校（肢体不自由高等部単置校）で「自分たちも頑張るは、車いすバスケット」との意欲を示してボールなどの部活動とともに、近隣高校生と会に向け、本道の特別の交流を目的とした支援学校におけるさまざまな取り組みが障害も取り組んでいる。者スポーツの発展に寄る。昨年度から、文部科与することを期待して学省の「心のバリアフリー推進事業」により、（上林宏文・北海道高校生との車いすカーリング体験交流を実施）岩見沢高等養護学校校